八幡事業所　Tel.Fax 672-7595
sawayaka@eagle.ocn.ne.jp
小倉事業所　Tel.Fax 647-3210
sawayakakokura@violin.ocn.ne.jp
HP: http://www.npo-sawayaka.net/

さわやか

2014年2月17日
第２０５号
追　悼　号

発　行　者
特定非営利活動法人
通院介護センター
さ　わ　や　か

江頭 博幸 相談役を偲んで

一月十四日（火）午後四時五十七分、通院介護センター「さわやか」の創設者で、相談役の江頭博幸が故郷の長崎県平戸市で逝去いたしました。七十二歳でした。ここに山田理事長による弔辞を掲載させていただき、また、事務局よりそれぞれの思い出等、これまでの感謝の気持ちを込めて、二〇五号を追悼号として発刊させていただきます。

「さわやか」新聞編集部

弔辞

特定非営利活動法人　通院介護センター「さわやか」
理事長　山田　浩美

江頭さん、最後のお別れの言葉を述べなければならない時が来ました。

本日ここに、故江頭博幸さんの葬儀が執り行われるにあたり江頭さんのご霊前に謹んで申し上げます。

あまりに突然の江頭さんの悲報に接して、今、私はまだ気持ちの整理がつかずにいます。初めて江頭さんとお会いしたのは十八年前の平成八年六月の福腎協の宿泊幹事会のときでした。

第一印象は「怖いおじさん」でした。そんな江頭さんに「さわやか」の事務局に電話番として雇っていただきました。

そこから私の人生は、一八〇度変わってしまいました。普通の主婦で、ただの透析患者のおばさんだった私が、そこからたくさんの事を教えていただき、たくさんの事を経験させていただきました。まだ教えていただきたいことがたくさんあるのに・・・

しかし一番悔しくて無念なのは江頭さんだと思います。

そんな江頭さんの「さわやか」に対する思いや志はこれから私たちが伝えていきます。江頭さんの姿は、わたしたちの脳裏に焼き付いています。江頭さんの真摯な生涯は、この悲しみの中にあっても、「さわやか」の誇りとするものであります。

得がたい思い出をたくさん残してくださって本当にありがとうございました。

ご家族のお気持ちを考えると、慰めの言葉もありませんが、私たちは心より、江頭さんの眠りが安らかであるようにと祈るばかりです。後は、天国から見守っていてください。

平成二十六年一月十六日

合　掌

あまりにも突然の知らせ

理事長　山田 浩美

一月十六日正午から平戸市の斎場で告別式が行われました。

「さわやか」からは、事務局全員と岡副理事長が参列しました。

また、福腎協からも塩屋会長と中島由希子事務局長が駆けつけてこられました。

たくさんのお花と、多くの所縁のあった方々に見送られ厳かに告別式は執り行われました

それは・・あまりにも突然の知らせでした。

一月十四日（火）夜、奥様の江頭眞紀子先生からその知らせは届きました。

最後までできちんと お見送りをしなければ

もう、頭の中は真っ白になっていましたが、とにかく関係者の方々にお知らせして、最後までできちんとお見送りをしなければと、そしてしか頭の中にはありませんでした。

それでも、江頭さんとの思い出がふと頭をよぎっていきました。

初めて江頭さんと会ったのは、平成八年六月の福腎協の幹事会でした。

そのころ私は病院腎友会の役員をしていました。

そろそろパートにでも行こうかと考えていた時に、腎友会の方から、「北九州市腎友会が通院送迎の事業を始めるので、コーディネーターを募集するので、行きませんか？」というお話をいただきました。

「電話番だよ」という言葉に 騙された・・

「コーディネーターってなに??」

「電話番だよ」と言われ、それなら私にもできるかも知れない・・などと考え、江頭さんとお会いしました。そこでも仕事の内容を確認しました。

「電話番みたいなもんです。一日に何件か電話すればいいですから・・」ニコニコ笑いながらそう答えた江頭さんに騙されました。

今でも時々笑い話として、騙された！と言っていました。それでも、たくさんのことを教えていただき、たくさんの貴重な経験をさせていただきました。

「さわやか」は、当時、透析患者の患者会が立ち上げた全国で初の通院送迎事業所として注目を集めました。また、市内の透析病院の院長先生やスタッフにも協力をお願いし、同時に全腎協や福腎協からバックアップをしていただき設立に至りました。

江頭 博幸がいたからこそ 「さわやか」が出来た

大変多くの方々にご協力をいただいて「さわやか」は誕生しましたが、江頭博幸がいたからこそ設立できたと言っても過言ではありません。

江頭博幸の行動力と情熱が周りの方々の心を動かし大きな力となったのだと思います。

「走りながら考える！」常にそう言いながら私たちを導いていただいたその行動力と情熱をそのまま引き継ぐことは、なかなかできませんが、江頭さんが作った「さわやか」を育て、発展させるよう、事務局一同取り組んで参ります。

皆様の更なるご指導ご鞭撻をいただきますようお願い申し上げます。

2014年2月17日　さわやか　第205号　追悼号

講演を聞き、涙したことも・・

常務理事　梶原待子

江頭さんとの思い出は一言では語り尽くせないほどあります。その中でも江頭さんが色々なところに講演に行かれる時、いつも現理事長と一緒に連れて行ってもらいました。現地の皆さんと一緒に講演を聞いて納得したり笑ったり時には感動して涙したことを思い出します。今でも講演中の江頭さんの言葉の言い回しや手の動きまでも覚えています。

この時に経験させていただいたことが今の私の肥やしとなっています。

先見の目をもっておられた江頭さんを見習いそして「さわやか」に対する志を私たちがしっかり受け継いでいかなくてはならないと思います。天国から見守っていてください「さわやか」が軌道から外れそうになったら指でつまんで軌道修正してくださいね、何もわからなかった私を今まで指導していただきありがとうございました。心より感謝申し上げます。

合掌

「さわやか」新聞は守ります

事務局長　高原由美

江頭さん、まだ信じられないのが私の想いです。

江頭さんには、いろいろな事を教わりました。言葉遣いや記事の書き方など、とにかく新聞を読めと口をすっぱく言われたことを思い出します。

そんな私が、まさか「さわやか」新聞の作成を引き継ぐとは思ってもいませんでした。

割付の仕方や、とにかく読みたい、読んでみたい新聞を作れ、と言われましたね。

何度も、言われてわかっているのに、出来ないもどかしさで、涙することもありました。

「さわやか」新聞は、守っていきます。安心してください。

この追悼号を作成しながら、上の方からチェックされている気がします。

「上手に出来ていますか？」と問いかけて答えを聞きたいです。

江頭さん、本当にありがとうございました。

教えていただいた事を励みに

事務局　貞谷希望

江頭さんと初めてお会いしたのは今から九年前で、当時は挨拶程度しかお話しする事はありませんでした。

しかし、「さわやか」で働き始めて再会しました。働き始めた当初、山田理事長と長崎へ同行し、講演を聞かせて頂いたり、ボランティア研修交流会でも色々なお話をして頂きました。江頭さんらしい言葉で、私の心に響き、時には笑わせて頂きました。

バスハイクでは、一緒に食事をしながら、色々お話をしたり、記念写真を撮ったりして、とても楽しかったです。

これからも教えて頂きたい事が沢山ありましたが、もう実現出来ない事が残念です。これからは江頭さんに教えて頂いた事を励みに「さわやか」を盛り立てていきたいと思うので見守って下さいね。本当にありがとうございました。

以前「さわやか」小倉事業所に勤めていて、大手町病院にて江頭さんと二十数年透析を一緒にうけていた、寄友絹枝さんに江頭さんとの思い出を投稿していただきました。

江頭さんとの思い出

大手町病院　寄友絹枝

年が開け、一月半ば突然の訃報でした。年賀状にも江頭さんらしい紙面だったので急には信じられませんでした。

大手町病院腎友会の会長として長崎に帰るまで、精力的に取り組んでいました。

新聞屋でもあり、読書家であり、文筆家でもあり、いろんな分野に精通され人間的にもどのような相手でも平等に真剣に対応していた事、多くの事教えられました。

大手町新聞「RENAL」も三〇〇号と長い間、多岐に亘る情報を発信してくださいました。残念ながら大手町病院腎友会も新聞も引き継ぐ事が出来ませんでした。

ただ、何かあれば電話一本で相談出来ていたとの支えが折れた思いです。今でも元気な笑顔の江頭さんしか頭にしか浮かびません！携帯電話に残っている江頭さんの番号どうしよう・・・・